

令和2年度学校関係者評価結果報告書

静岡県立看護専門学校

1 評価の概要

対象年度	令和元年度（平成31年4月1日～令和2年3月31日）
実施時期	令和2年5月19日から令和2年6月3日
評価者	静岡県立看護専門学校関係者評価委員会（委員3名 敬称略、順不同） 平賀 聖悟（三島総合病院 名誉院長）、杉山 眞澄（静岡県立大学 准教授）、 石田 盛己（個人）
評価方法	令和2年2月に実施した本校の「学校自己評価」結果を元に、学校関係者から評価、助言をいただいた。 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校関係者評価委員会を書面により開催した。

2 評価結果

(1) 教育理念・目標

自己評価	5項目の評価平均2.89点（適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1）
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・評価平均は、2.89点であり、全体として概ね適切と評価されている。 ・「社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想」や「学校の理念・目的等の学生・保護者等への周知」、「各学科の教育目標、育成人材像の業界ニーズへの対応」については、“やや不適切”“不適切”を合わせた評価が4割程度ある。
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校の理念・目的・育成人材像」や「職業教育の特色」等については、ほぼ80%の職員が概ね適切と評価しているが、「社会のニーズ等に合わせた学校の将来構想」や「学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想の周知」等は60%程度と不十分であり、「各学科の教育目標、育成人材像の業界のニーズへの方向づけ」も約60%と不十分であると評価する。 ・県内の特に東部地域に貢献できる幅広い見識を持つ看護師、助産師の育成に尽力されており、理念と目標は合致していると考えます。 ・大事なのは、学生に対して日々の講義や演習・実習の中で伝えていく努力や工夫が必要です。講義の枠だけにとらわれない特別講義などで幅の広い学びができるようにしていくと良いのではないかと思います。 ・看護師、助産師を要請する学校として、その理念・目標・育成人材像、職業教育の特色については評価が高く、学校としての基本姿勢は整っているのだなと思います。 ・一方で、その理念・目標・人材育成像や将来構想が社会や業界のニーズを踏まえたものになっていないとの評価が4割近くありますが、どのような点に危機感を抱いているのでしょうか。また、それらが周知されていないとの評価も4割近くあります。これらは入学してきた学生を指導して感じることでしょうか。た

	<p>例えば、どこかの高校で職業教育としての授業や講演会などを行い、それを新聞に取り上げてもらうと、その記事をそのほかの高校でも校内に掲示したりして進路指導でも利用してもらえるとと思います。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・将来的なカリキュラム改正を見据えた、教育目標等を含めた柔軟な見直しを行うことで、県内で活躍できる看護師、助産師の育成に努めていく。

(2) 学校運営

自己評価	8項目の評価平均 2.66 点（適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1）
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・評価平均は、2.66 点であり、全体として概ね適切と評価されている。 ・「運営方針に沿った事業計画の策定」や「運営組織や意思決定機能の明確化、有効に機能」、「情報システム化等による業務効率化」については、“やや不適切” “不適切” を合わせた評価が 4～5 割程度ある。
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「目的等に沿った運営方針」は 60%程度策定されていると評価されているが、「運営方針に沿った事業計画」は 50%程度しか策定されておらず、適切と考えている職員は 7.7%のみと少なく、「運営組織や意思決定機能」も 50%程度のみ有効と少ない。 ・「人事、給与に関する規程等」、「教務・財務等の組織整備など意思決定システム」はほぼ整備されている。 ・「教育活動等に関する情報公開」は 60%程度行われているが、「情報システム化等による業務の効率化」の現状は低い。 ・学校運営に関わる項目の教員評価は、他と比べて低い傾向にありました。特に「運営組織や意思決定機能の明確化、有効に機能」については、アンケートでは半数の教員が「やや不適切」と回答しています。 ・運営方針を理解し、積極的に意見交換ができ、一人の教員の意見であってもそれを取り上げ実施し評価して修正していくといった、自由な雰囲気での意見聴取や会議運営が求められていると思われまます。 ・運営方針、事業計画、運営組織についての評価が不十分であるとの評価が 4 割～5 割となっています。講義や実習などは担当教員の裁量に任される部分が大きくなるのは教育機関として必然な部分もありますが、業務を行うに当たって戸惑いを感じている教職員が 4 割～5 割いるというのは、教育の質にもかかわりますし、教職員のメンタルヘルスにも影響してくるので、早急な問題点の洗い出しと改善が必要と思います。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・運営方針に沿った事業計画の策定や、運営組織や意思決定機能については、運営会議、職員会議、教務会議等を置いて学校運営を進めているところであり、今後も適切な運営に努めていく。また、日々の教務業務の効率化による業務改善に取り組んでいく。

(3) 教育活動

自己評価	14 項目の評価平均 2.59 点（適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1）
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・評価平均は、2.59 点であり、全体として概ね適切と評価されている。 ・「職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発」、「関連分野の関係施設等との連携によるカリキュラム作成と見直し」については、“やや不適切” “不適切” を合わせた評価が 5 割程度ある。 ・「外部関係者からの評価取り入れ」、「人材育成目標の達成のための教員確保」、「関連分野業界等と連携するための教員の確保」、「教員の知識・技能、指導力育成、能力開発の研修」については、“やや不適切” “不適切” を合わせた評価が 6～7 割程度ある。
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針」はほぼ 80% 策定され、「実践的な職業教育（実技・実習）」も 65% 以上体系的に位置づけられており、「授業評価の実施・評価体制」も 73% 行われ、「資格取得等に関する指導体制、カリキュラム中での体系的な位置づけ」も 65% 以上で行われている。 ・一方「キャリア教育・実践的な職業教育のカリキュラムや教育方法の工夫・開発」はほぼ 50% の評価しかなく、「関連分野の関係施設や団体等の連携によるカリキュラム作成等」は 50% 以下の評価で、「外部関係者からの評価取り入れ」、「人材育成目標のための教員」、「業界等との連携のための優れた教員の確保」、「教員の知識・技能・指導力育成」、「能力開発の研修」に対する評価は極めて低い。 ・2022 年度入学生からのカリキュラム改正に向けての検討は進められているでしょうか。これは、単に総単位数を 87 から 102 単位に増やせばいいというものではありません。ICT の基礎的な能力やコミュニケーション能力の強化や解剖生理学等の基礎的な能力の強化、さらには「在宅看護論」が「地域・在宅看護論」となり、患者や家族を見る力だけでなく、予防も含む地域の分析と関係者と協働する力をつけることが求められてきます。 ・私の所属する大学では、委員会を立ち上げて検討しています。貴校においても、関係の専門家や団体の意見を聞きながら、今後、どのような看護師が求められていくのか、教員自身も学びながら検討されることを期待しています。 ・その為には、看護教員の外部への積極的な研修や学会参加をする体制づくりや人事交流による教員の質の担保が必要です。また、ICT の基礎的な能力や地域・在宅看護など、専門分野の新たな教員確保が必要かと思います。 ・カリキュラムや教育方法について不十分との評価が 4 割あるのは、先生方がそれだけ学生の指導を真剣に考えてくださっているあらわれかなと思います。単に国家試験に合格させるだけでなく、学生が現場に出てきちんと仕事ができるように、更には将来的な成長をも見据えての指導をしたいという意味での厳しい評価かなと思います。 ・教員の確保については 6 割～7 割が不十分と評価されていますが、教員の資質向上のための取り組み、研修についても 6 割が不十分という評価と併せて考えると、先生方が日々進歩していく医療現場の現実をきちんと見据えて、それに取り組んでいく真摯な姿勢が見て取れます。忙しい中でも、そうした教員が学ぶ機会

	は大切ですので、その機会を増やして行ってほしいと思います。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・将来的なカリキュラム改正を見据え、委員の意見を踏まえて、人材確保を含めた柔軟な見直しを行い、県内で活躍できる看護師、助産師の育成に努めていく。 ・教員の知識・技能、能力開発の研修等の取り組みについては、業務分担を見直すなど、研修等に積極的に参加できる体制を目指し、研修機会の創出に努めていく。

(4) 学習成果

自己評価	5項目の評価平均 2.39点（適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1）
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・評価平均は、2.39点であり、「やや不適切～不適切」の評価が多く、全体として一層の改善が必要である。 ・「資格取得率の向上対策」、「卒業生・在校生の社会的活躍や評価の把握」については、“やや不適切” “不適切” を合わせた評価が6割程度ある。 ・特に、「退学率低減の対策」、「卒業後のキャリア形成効果の把握や学校教育への活用」については、“やや不適切” “不適切” を合わせた評価が65%程度ある。
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「就職率の向上が図られているか」については、53.9%が肯定的で、これは、看護師の就職率が高いので格別な対策が見られないと思われる。 ・「資格取得率の向上を図る」については42.3%とあまり前向きでない回答が多いが、国家資格取得目標が明確にあるので、改善の必要がある。 ・「退学率低減の対策」についても34.6%のみの肯定的回答（とくに適切は7.7%と低率）なので、対策が必要と思われる。 ・「卒業生・在校生の社会的活躍や評価の把握」は、ほぼ42.3%（適切3.8%）と低く、とくに「卒業後のキャリア形成効果の把握や学校教育へ活かす」割合は、34.6%と低いので、今後の課題の1つとなる。 ・アンケートでは、「資格取得率の向上」「退学率の低減」「卒業生や在校生の社会的な活躍および評価の把握」「卒業後のキャリア形成への働きかけ等」が軒並み、「不適切」もしくは「やや不適切」でした。 ・これに対して、教員自身が実態を評価するだけでなく、どのような対策をとったら良いと考えるのか、意見交換をして一つずつ取り組んで欲しいと思います。 ・また、卒業生へは、WEBを利用して調査を実施するのも良いのではないのでしょうか。この結果は、学生募集にも活用できますし、卒業生による講義（講演会）を計画すると、在校生の進路選択の役に立つと思います。 ・ここでも各項目4割から6割が不十分という評価ですが、資格取得率は昨年度は看護1学科で1名不合格のほかは全員合格、就職も学校のHPに「ほぼ100%」と書いてありますので、4割から5割が不十分と評価しているのは常に全員合格を目指している意気込みの表れだと思います。 ・退学率の低減については他の看護学校の退学率はどの程度なのか。看護以外の大学や専門学校でも退学者はそれなりにいるはずで、高校も卒業した学生自身が、自らの適性や将来を大人として判断し、進路変更するのは一概に悪いとは思いません。特に医療職を養成する学校の場合、知識や技術が水準に達していない学生を送り出すわけにはいかないもので、そうした退学はやむをえません。

	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生のその後の様子を把握し、教育活動の改善につなげる取り組みは非常に重要ですので、方法を考えていきましょう。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生の社会的活躍の把握や卒業後のキャリア形成効果の把握、これらの学校教育への活用については、委員の意見を踏まえ、教育活動の改善に取り組んでいく。 国家試験対策として、低学年から国家試験を意識した学力強化を行うほか、最高学年では不得意分野の対策を強化することで全員の国家試験合格を目指し、資格取得率の向上に向け、引き続き取り組んでいく。 本校の退学については、学生が自ら適正を判断して退学した事例が多い。オープンキャンパスを開催し入学後のミスマッチを減らすことや、入学後も、学生の悩みを解消し学習意欲を高めて学校生活を送れるように、臨床心理士によるカウンセリングを実施するなど、退学率の低減に引き続き取り組んでいく。

(5) 学生支援

自己評価	10項目の評価平均 2.72 点（適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1）
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 評価平均は、2.72 点であり、全体として概ね適切と評価されている。 「学生に対する経済的な支援」については、“適切” “やや適切” を合わせた評価が約 85%あることから、引き続き、奨学金や授業料減免等の制度の活用を、必要とする学生に案内していく。 「学生の生活環境への支援」、「社会人のニーズを踏まえた教育環境整備」については、“やや不適切” “不適切” を合わせた評価が 45%程度ある。 特に、「高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組」については、“やや不適切” “不適切” を合わせた評価が、5割を超えている。
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 「学生相談に関する体制」、「学生に対する経済的な支援体制」、「健康管理を担う組織体制」、「保護者との適切な連携」等は、70～80%の評価でほぼ良好であるが、「進路・就職に関する支援体制」は 60%（適切 15.4%）、「学生の生活環境への支援」は 54%（適切 11.5%）と改善の必要がある。 「学生の課外活動に対する支援体制」は 60%以下（適切 7.7%と低値）であり、「卒業生への支援体制」61.5%（適切 7.7%）、「社会人のニーズを踏まえた教育環境」53.9%（適切 7.7%）、「高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組」46.1%（適切 11.5%）と、外部との連携について改善が必要である。 学生支援については、教員の皆様が概ねできているとの評価でした。ただ、高校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組についての評価のみが他と比べて低い傾向です。 県立大学では、教員が県内の高校に出向きミニ講義をしています。高校から、専修学校と大学進学の特典・デメリットについても併せて話して欲しいというところが少なくありません。入学生が多い高校などへは、そのようなサービスも必要なかと思います。 経済的な支援については、学費の減免制度や奨学金の利用などが整っており、十分な支援が来ていると思いますし、相談や健康管理についても、スクールカウンセラーや保健室が設置されているほか、先生方も普段から学生の相談に乗って

	<p>いるようで、こちらも十分かと思えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校等との連携については、現代の学生は、昔のように入ったからにはとにかく頑張るしかないという価値観で成長していくタイプではないので、仕事についてある程度具体的なイメージをもってもらい、自らの適性を判断したうえで入学してもらうことが必要と思えます。高校よりも前の中学生段階からアピールしても良いと思えます。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が高校に出向き学生に説明する機会を設けるなど、高校等と連携した取り組みについて、委員の意見を踏まえ、引き続き取り組んでいく。

(6) 教育環境

自己評価	3項目の評価平均 2.64 点（適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1）
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・評価平均は、2.64 点であり、全体として概ね適切と評価されている。 ・「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか」については、“やや不適切” “不適切” を合わせた評価が5割を超える。
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育上の必要性から見た施設・設備」は不十分ということが肯定的な 46.2%（適切 7.7%）の回答からうかがえる。 ・「学内外の実習施設等」については学外の多数の実習施設を利用している本学の特徴から 53.8%が肯定的であるが十分満足している状況ではない。 ・「防災に対する体制」は 84.6%がほぼ整備されていると考えており特に問題はないと考えられる。 ・教育環境としては、視聴覚設備の他に、今後カリキュラム改正での情報通信技術の習得ができる教育環境が必要になります。また、看護技術のシミュレーション機器なども随時購入、活用していくことで学生は看護アセスメントと技術の習得が容易になります。そのための予算の増額をお願いしたいと思います。 ・施設・設備については5割以上の教職員が不十分であると評価しています。予算の問題もあるでしょうが、日々進歩する医療現場に対応できるよう、施設設備の更新は重要課題です。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の整備については、耐用年数や故障等のタイミングで、順次入れ替えを実施していく。また、校内のインターネット環境の整備に取り組んでいく。

(7) 学生の受入れ募集

自己評価	3項目の評価平均 3.10 点（適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1）
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・評価平均は、3.10 点であり、全体として適切と評価されている。 ・「学生募集活動の実施」や「学習募集活動における教育成果の提示」については、“適切” “やや適切” を合わせた評価が約7～8割ある。
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「学生募集活動」はほぼ70%（適切 38.5%）が適切に行われていると考えられている。 ・「学生募集活動」において、ほぼ81%（適切 15.4%）の教員が教育成果は正確に伝えられていると考えている。 ・「学納金（授業料等）」については、ほぼ81%（とくに適切 50%）が妥当と考え

	<p>られており、適切とする割合も高い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、それほど積極的に行わなくとも募集人員に達しているのではないのでしょうか。しかし、今後近隣に大学が開校するようになると状況が変わってくるかと思います。 ・今後は、広報やマスコミだけでなく、YouTubeなども利用して広く周知することなど工夫されると良いのではないかと思います。 ・学生募集活動については、毎年定員を超える志願者を確保しており、適切に行われているという評価のとおりだと思います。 ・教育成果を伝えることについても、学校のHPに国家試験合格者数、就職先などが明記されており、こちらも評価のとおり充分であろうと思います。 ・学納金についても県立であるため安価であり、妥当との評価のとおりだと思います。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動については、オープンキャンパスや、高校訪問、合同進学説明会へのブース出展、ホームページなどをおし、引き続き、本校の魅力のPRに努めていく。

(8) 法令等の遵守

自己評価	4項目の評価平均2.74点（適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1）
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・評価平均は、2.74点であり、全体として適切と評価されている。 ・「自己評価の実施と問題点の改善」については、“やや不適切”“不適切”を合わせた評価が約46%ある。 ・「自己評価結果の公開」については、“やや不適切”“不適切”を合わせた評価が6割を超える。
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「法令、専修学校設置基準等の順守と適正な運営」はほぼ92.3%（適切38.5%）と最も高い評価が与えられている。しかし「個人情報の保護に対する対策」はほぼ65.4%（適切23.1%）とやや低評価なので、より改善が必要である。 ・「自己評価の実施と問題点の改善」はほぼ50%（適切11.5%）と低く、「自己評価結果の公開」についても肯定的評価は34.6%（適切7.7%）に過ぎず、今後の課題の1つとなる。 ・概ね、問題はないというアンケート結果でしたが、「個人情報の保護対策」については、不適切やや不適切が3割を越していました。これは、何か問題があったということでしょうか。学生の行動面なのか、学校側の問題なのかによって対策が異なります。確認の上検討をお願いします。 ・自己評価の実施と問題点の改善について半数近くが不十分と評価しているところ、これについては、自己評価自体は行っているもので、不十分と評価した人たちは、問題点の改善という点に不十分さを感じているのでしょうか。それはこれまでの評価結果にも見て取れるので、不十分という評価が高い項目（特に5割を超える項目）については、なんらかのアクションを起こしたほうが良いと思います。改善点としては、組織運営、教育活動、高校等との連携、施設設備面でしょうか。

改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「自己評価の実施と問題点の改善」については、学校関係者評価委員の意見を踏まえた学校運営の改善を行うことで、自己評価の問題点の改善につなげていく。 ・「自己評価結果の公開」については、学校窓口での公開のみであったが、当校のホームページへの掲載など、公開方法を改善する。
-----	---

(9) 社会貢献、地域貢献

自己評価	3項目の評価平均 2.43点（適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1）
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・評価平均は 2.43 点であり、「やや不適切～不適切」の評価が多く、全体として改善が必要である。 ・「学校教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献」、「地域に対する公開講座等の積極実施」については、“やや不適切” “不適切” を合わせた評価が約 6 割ある。
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献」に肯定的評価は 38.4%（適切 3.8%）に過ぎず、「地域に対する公開講座等の積極的実施」は 26.9%（適切 3.8%）に過ぎず、今後の大きな課題の 1 つといえる。 ・「学生のボランティア活動の奨励、支援」については、65.4%（適切 19.2%）と前向きな評価も見られるが、十分とはいえない。 ・貴校の資源を活用した社会貢献・地域貢献などについて、例えば地域の防災対策で、学生にもボランティア参加させるなどは可能かと思います。 ・また、地域の看護師を集め、教員研修をかけた研修会を開催するのも地域貢献になるかと思います。さらに助産学科もできたことですので、近隣の市町に働きかけて育児教室（相談会等）の開催をするのも、学生の学びにもなると思います。 ・社会貢献、地域貢献、公開講座の開催という点で不十分という評価が 6 割ということでこちらも何らかの工夫が必要ですね。これまでオープンキャンパスや文化祭で社会や地域に学校を解放し、そこでの体験なども行って来たようですが、学生の教育がかなり忙しいので、それ以上となるとなかなか難しいのかなと。さらに今年度はコロナウイルスの影響もあり、人を集める活動が難しい状況なので、公開講座の開催というのも出来にくいですね。今年度やるとしたら、学校の HP に家庭で出来るコロナウイルス対策を載せるというのも手かもしれません。医療系の学校として、そうした情報をそのような方法で発信するのも社会貢献や、公開講座の代わりになると思います。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献や地域貢献等については、委員の意見を踏まえながら、地域の方が参加できる公開講座の開催や、地元自治体や団体と連携した研修会の実施、防災訓練への参加など、継続して取り組んでいく。